

のなかま 2016年11月号 NO.103 (継続248号) 事務所が移転しています!!

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 http://www.forest-kanagawa.jp 発行人 久保 重明 〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階 604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

森林部会 平成28年度 『除伐・里山整備研修会』 が開催されました

日時: 9月25日(日) 10:15~15:10 晴れ時々曇り場所: 伊勢原市三ノ宮所在「ひじりの森」(エリアA)

《 森林部会 斉藤 夏葉 13期 》

雨の多かった9月だったが、当日はお天気に恵まれ「ひじりの 森」で除伐作業の指導方法の習得と実践の研修を行った。

伊勢原駅 9:30 発のバスに乗り、バス停から徒歩でひじりの森へ 移動。登山道脇広場へ到着するころには汗だくになるくらい蒸し 暑い。身支度、オリエンテーション、集合写真撮影に続き、10:30 から講義。講義では除伐とは何か、ひじりの森における目標林型 と除伐方法の説明、県民参加の森林づくりおよびネットワーク活 動でのインストラクターとしての指導ポイント、安全への配慮などに ついて説明があった。各現場での整備方法に沿った指導ができ るよう、インストラクター自身が目標林型と当日の除伐対象木を確 認、理解し、参加者へ解説することが求められる。

11:00 から全員で体操を行った後、各班に分かれて午前の作 業実習。昼休みにはこれまでの除伐の経験で気がついたことやヒ ヤリハットなどを各自用紙へ記入。

午後は 12:30 から 2 時間程班毎での実習。参加者はインストラ クター役を交代で務め、除伐作業における指導方法と基本的技 術の両方を会得、再確認した。作業後の現場は明るく見通しが利 くようになり、参加者の遣り甲斐の声も印象的であった。

作業終了後は意見交換と講評。ここでは部会長より、昼休みに 各自が記入したシートの内容についてのまとめの発表があった。

また講師より、現場でどこから手を付けるかの判断、どこで鉈・ 鋸を使うのか受け口の要否、作業効率を考えての人員の振り分け の大切さ、なぜ伐根をできるだけ地際で切るか、などについて話 があった。

15:10 には解散、徒歩でバス停へ移動し本日の研修会は無事 終了した。

今回の研修を通してインストラクターとしての指導方法や安全管 理について、また実際の除伐作業の方法、注意点などを再確認 できた。各自のスキルアップにつながる研修会であった。

(次ページに続く)



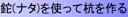
講義風景

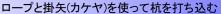


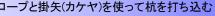
班に分かれて現場へ移動



本日の「お邪魔虫の木」は 細いアラカシとアオキ









チームワークで効率的に作業



作業終盤、光が差し込むようになった



意見交換・講評、お疲れ様でした



講師: 足立氏④、佐藤氏⑤、富樫氏⑥、有坂氏⑧、松永氏⑪ 幹事: 足立④、滝澤⑤、斉藤⑬

参加: 菊地①、野牛⑧、水津⑨、辻村⑨、大澤⑩、宮下⑩、安井⑫、宇田川⑬、江頭⑬、 江上⑬、北村⑬、武井⑬、岩田⑭、木村⑭、國弘⑭、立花⑭、谷⑭、西岡⑭、水野⑭

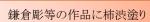
森林文化部会 『柿渋塗り体験』

日時: 9月18日(日) 場所: やどりき水源林休憩棟 参加者 12 名(会員)

過去、森林文化部会では、紙すき、草木染め、炭焼きなど、先人 の知恵を学ぶ体験教室を実施してきました。そして、2012年に柿渋 液作り、2015年に鎌倉彫体験を行いましたが、今年はそれら作品を 持ち寄り、柿渋塗り体験を行いました。

柿渋液は4年間でかなり熟成しました。しかし、製作時の水の配合 量や、貯蔵する環境でかなり熟成度合に違いがあります。今回は、 自作の柿渋液と市販の柿渋液を配合して塗布液にしました。鎌倉彫 りや、竹の容器、布バッグなどに、乾燥を交え数回途布して完成。

《 記&写真: 森林文化部会 井出 恒夫 1期》





柿渋は時間がたつに従い独特の風味が増して行きます。作品の今後の成長が楽しみです。